

JPO派遣制度説明会資料

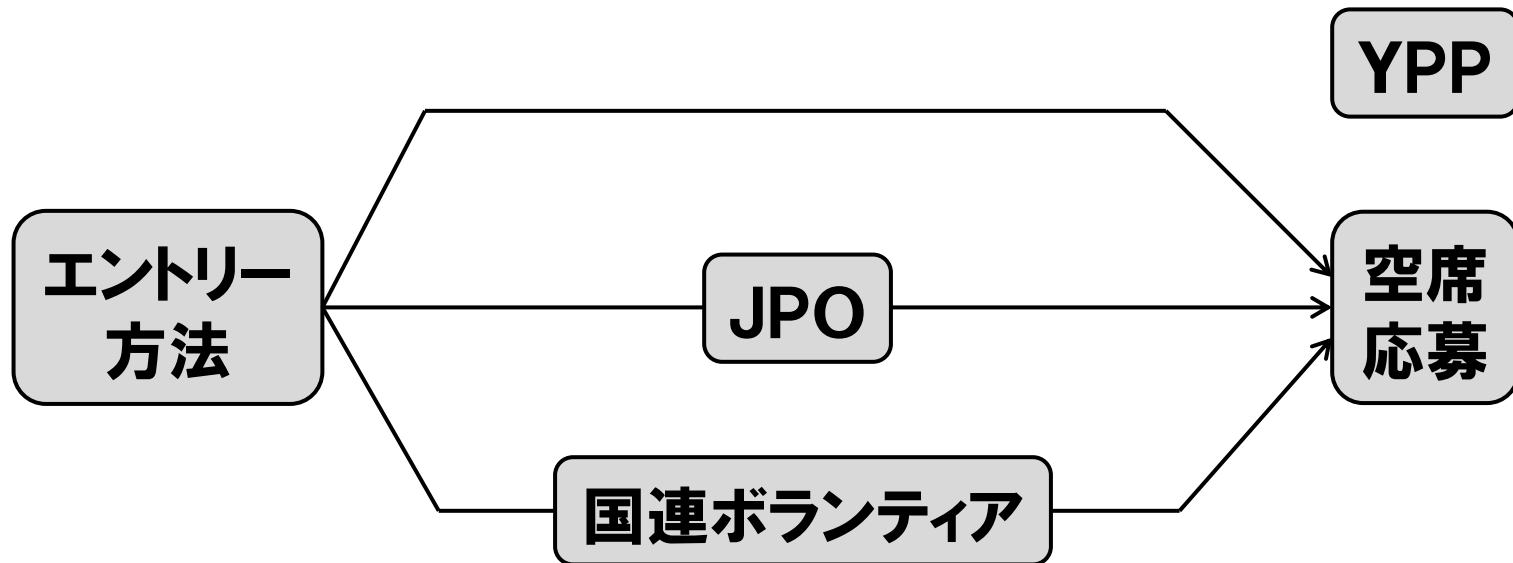
**外務省国際機関人事センター
2017年3月25日
於：ユニセフハウス(東京)**

- 1 制度概要**
- 2 2017年度試験
- 3 試験対策

1-1 制度の概要

- 国連職員3万2千人，うち日本人職員800人
- もっと多くの日本人に貢献してほしい
- 日本人職員のうち，JPO出身者…45%
- 応募条件
 - ①35歳以下，②修士号＋職歴2年，③英語，
 - ④将来にわたり国際機関で勤務する意思，
 - ⑤日本国籍

1-2 国際機関へのエントリー方法



【ポイント】

- 一般応募は倍率200倍前後(世界中の候補者との競争)
- 国連で何らかの経験がある人が有利
→JPO, 国連ボランティア等で経験を積んでから応募するのが近道
- JPOは倍率5~7倍程度(日本人同士のみでの競争)

1-3 給与水準

• NY勤務（単身者，1年目）の例

基本給（年俸）	4万6千ドル	}	計 約77000ドル （約860万円）
地域調整給（×64.9）	3万1千ドル		
着任時日当（30日分）			
着任一時金（給与1か月分）			

• ナイロビ勤務（単身者，1年目）の例

基本給（年俸）	4万6千ドル	}	計 約67000ドル （約750万円）
地域調整給（×31.8）	1万5千ドル		
ハードシップ手当（B）	6千ドル		
着任時日当（30日分）			
着任一時金（給与1か月分）			

1 - 4 福利厚生

- 家賃補助
- 扶養手当，教育補助金
- 病気休暇，出産休暇，帰国休暇
- 着任・離任旅費，引越し費用の補助
- 警備費用の補助
- 国連年金への補助，健康保険・生命保険への補助 等
- 国連勤務5年未満で退職する場合，積み立てた年金は返金される

給与の計算方法，福利厚生制度は国際人事委員会（ICSC）や国連人的資源管理部（OHRM）のウェブサイトを参照

- 給与水準表 <http://icsc.un.org/secretariat/sad.asp?include=ss>
- 地域調整給の係数 <http://icsc.un.org/secretariat/cold.asp?include=par>
- 福利厚生制度 http://www.un.org/Depts/OHRM/salaries_allowances/allowanc.htm

1-5 国連のポストの区別

• ハードシップ

国連の勤務地はA～E, H (Headquarters) のハードシップ区分があり, これにより手当額や休暇の頻度が決まる。例えばタイ・バンコクはA, シリア・ダマスカスはE。

• Non-Family Duty Station

ハードシップとは別に, 家族を帯同できる勤務地とそうでない勤務地が定められている。

ただしFamily Duty Stationであっても気候や利便性の点で実際には家族の帯同が困難な場合がある。

• 本人が赴任困難と予め申告したポストを提示はしないので, JPOの応募用紙には正確に申告する

※赴任後に情勢が変化する場合は, 国際機関職員として所属機関の指示に従う

1-6 JPOの利点：研修・就職支援

- 外務省による赴任前研修（於東京）
- 国際機関による初任者研修（各機関本部）※初任者研修を行わない機関もある
- 任期中の研修費助成（年間3,000ドル）
- 国際機関によるメンター制度，CV添削，模擬面接等※設けていない機関もある
- 外部有識者によるCV添削，模擬面接等※予算により実施しない場合もある
- 外務省を通じた先輩JPOとの情報交換
- 外務省による国際機関のポスト紹介

- 1 制度概要
- 2 2017年度試験**
- 3 試験対策

2-1 2017年度試験

【前回（2016年度試験）からの変更点】

- **OECD枠の導入**

- 第二次審査では、UNDP, WFP, OECDの3機関が「国際機関選考枠」の対象になった

- **応募用紙（和文）の改訂**

- 希望欄がより細かくなった（機関, 職種, 勤務地, 業務を記入する）

- 具体的なポスト名を書かなくてもよい

- 勤務困難な事情がある場合はハードシッフ等の条件を明記する

2-2 国際機関選考枠の意義

- UNDP, WFP, OECDについては、第二次審査を国際機関側が実施することについて各機関と個別に取決めがある
- 国際機関が主体的に採用したJPOとして、JPO任期中、より手厚い支援が期待できる。特にUNDPでは「内部候補」扱いを受け、職員向けのポストに内部応募することができる
- ただし、国際機関選考枠では、国際機関に推薦された後、他の候補者と競争選考になる（外務省選考枠では、国際機関に推薦されれば、一定の基準を満たしている限り採用となる可能性が高い）

2-3 配属はどのように決まるか

Q1 希望どおりに配属されますか？

- 候補者の希望を最大限尊重しているが、異なるポストを提示することもある
- <なぜなら>
- ポストが有限である（同一ポストに希望が集中する場合もある）
 - 個人の希望を実現すると同時に、公的目的（国際機関への人的貢献、国際機関の日本人職員増強）を実現する必要がある
 - JPOは入門ポスト。いずれ管理職になれば幅広い業務を担当する。希望を柔軟に持つことも、JPO後に残るコツ。
 - 派遣先では、専門にとどまらず業務を積極的に引き受けるJPOが評価される傾向。

2-3 配属はどのように決まるか

Q2 どのように希望を決めればいいですか？

- JPOは通過点。JPOの2年間だけでなく、そのあと残る方法も現実的に考えておく

<チェック>

- 自分の希望する分野で実際に求人は出ているか
- 自分の希望する分野ではどのような予算傾向があるか
- フィールド（現場）中心の機関で、管理部門（人事、財務等）以外の職種で本部派遣を希望する場合、フィールド事務所ではなく本部勤務を選んだ志望動機を説明できると良い。

- 1 制度概要
- 2 2017年度試験
- 3 試験対策**

3-1 試験対策

- **合格するには必ず書類審査を通過する必要がある**
 - **よい応募書類を書くことが合格のカギ**
 - **よい応募書類とは？**

3-2 よい応募書類とは？

- 経歴を並べるだけではなく工夫する
- 工夫できる部分
 - 経歴（和文用紙，英文用紙）
 - 志望動機（和文用紙）
- 内容面をよく考える
 - 国際機関で何をしたいのか
 - 日本政府とも良く信頼関係を築ける人材であるのか
 - 国際公務員として誠実な勤務を感じさせるか etc.

3-3 経歴

・ 職歴欄におけるアピール（和文/英文用紙）

- 職務内容（duties）と業績（accomplishments）を分けて書く
→記入上の注意（[和文用](#)）（[英文用](#)）を必ず読んでから書くこと！
- 単なる説明ではなく，国際機関の仕事にどのように役に立つかアピールする。
- 希望する職種の職務仕様書（job description, terms of reference）（[昨年例](#)）に現れるキーワードを入れると効果的。

・ 応募者と国際機関との接点（和文用紙）

- UNV勤務，国際機関インターンシップ参加，仕事のカウンターパートが国連職員だった，学生のころ国連のシンポジウムに参加した等のエピソードが分かるように書く
- 上記のような記述で，国際機関を目指している根拠を示す

3-4 志望動機

- 書類審査の重要な審査ポイント。
- JPOになったあとのビジョンが明確か（JPOになることが目的になっていないか）。
- 個人の目的意識と、公的な認識（年間1千万円以上の税金で派遣されることへの認識）の両方が説明されているか。
- JPO任期後も将来にわたり国際機関で勤務する意思があるか（「募集要項」応募資格の4）。
- 国際機関に対する個人的なエピソードを持っているか。
- 国際機関の持つ課題にも理解があるか。

3-5 説得力のある志望動機を書く

- 具体的な根拠をつける。

＜例＞

「グローバルな職場で仕事をしたい」←なぜ国際機関？

「幼い頃から国連に憧れてきた」←国連を意識した経歴になっているか？

「本部で政策を立案したい」←本部勤務に必要なフィールド経験は有しているか？

- 海外勤務の経験がない方でも合格可能。海外勤務に耐えられることを説明すること。
- 書いたあと、誰かに読んでもらうと良い。

3-6 必ず誰かは合格している

- **2016年度JPO試験（追加募集除く）**

受験者：331名 合格者：48名

→7名に1人が合格。

あなたも国際公務員になるチャンス。

- **誰もが出発点は一通の応募書類。**

ご健闘をお祈りしています。